

【R7年頭訓示】

R7-1-10

矢野弘典

日々新たに

明けましておめでとうございます。地震や飛行機事故とともに明けた昨年に比べると、見違えるように穏やかな新年でしたが、皆さま、年末年始はご家族と共にゆっくりされましたか。例年になく長いお休みでしたので、お陰様で私も十分に英気を養うことができました。

元日に近所にある神社にお参りして、私が心に誓ったことは、「日々新たに」という思いでした。この言葉は、『大学』という今から2500年ほど前に書かれた本の中にあります。正しく引用しますと、次の通りです。

湯(とう)の盤の銘に曰く、まことに日に新たに、日々に新たに、

また日に新たなり、と。

湯とは、紀元前16世紀頃に夏(か)という国の最後の王・桀(けつ)を滅ぼして、殷(いん)を建国した王様の名前です。桀という王様は歴史に残る暴虐な人物で、人々の信望を失っていたそうです。湯王は、毎朝洗面する盤、多分銅盤だと思いますが、そこに今申し上げた「日々新たに」を刻んで、

毎日の戒めとしたと伝えられています。これは、私が最も尊敬する経済人であった土光敏夫さんが、座右の銘として最も愛した言葉で、人に揮毫を頼まれるとこれをいつも書いておられました。「メザシの土光さん」とNHKで昭和57年に放映されたのをご覧になった方もあることでしょう。教育者であったお母さんの「個人は質素に社会は豊かに」を生涯の指針とし、質素な生活と無私を貫いて、会社の再建や行財政改革を進めた方です。

色々と言葉の由来を申し上げましたが、「日々新たに」を心に、毎日新しい気持ちで皆さまと一緒に仕事をする1年にしたいと考えております。

さて、今年の課題についてお話する前に、昨年の十大ニュースを振り返ってみます。HPでも紹介されていますので、要点のみを申し上げます。

《十大ニュース》

1, 未来への挑戦

- (1) センター・三公社一体化プロジェクトが本格化。タスクフォース間の連携も進み、具体的成果が実現。AI活用も検討開始。
- (2) (道路)ではETC導入に着手、(住宅)では牧之原市営住宅管理をR7年度から受託。

2, お客様サービスの充実

- (1) (道路)花博開催期間中、浜名湖新橋の無料通行を実施。
- (2) (土地)菊川市から初受注。長泉町と国交省は7期連続受注
- (3) (住宅)「高齢者ふれあい講座」を9団地で実施。

3, 地域社会への貢献

- (1) (土地)伊豆市「日向公園」「新中学校」、長泉町「鮎壺公園」の整備で地域発展に貢献。
- (2) (道路)スタンプラリーを3年連続実施し、観光振興に貢献。
- (3) (住宅)防災体験訓練、団地美化運動の自治会と共同実施。

4, 健全経営の推進

- (1) R5年度決算で、(住宅)21期連続、(道路)9年ぶり黒字化。
- (2) インフラ技術支援担当は、R5年度、過去最高額17件受注。
- (3) (土地)県企業局と連携し、市町の用地取得支援体制を構築。
- (4) 箱根SLで45年ぶりに料金値上げを実施。
- (5) 業務功績・ひとり一挑戦表彰で、現場主義に徹した改善が前進。

5, 計画的な事業推進

- (1) (道路)両SLで新グランドデザイン後期5カ年計画推進、伊豆SLでは料金所再編事業を推進。

- (2) 地籍調査で、川根本町は8期連続、長泉町は2期連続、袋井市は初受注。

6, 安全安心、社会・経済の変化、様々なリスクへの対応

- (1) コンプライアンス・リスクマネジメント強化のため、職員研修を多数実施。コンプライアンス(法令遵守)は、法治国家の国民や団体が守るべき最低の義務で、職員、とりわけ管理者はより高い倫理観を持って仕事をし、部下の指導にあたって頂きたい。
- (2) (道路)伊豆SL路肩決壊の早期復旧。
- (3) (住宅)入居要件緩和を実施。能登地震被災者に住宅提供。

7, 働き方改革の推進

- (1) 定年の段階的引き上げ開始、高齢職員の短時間勤務等を実施。
- (2) 在宅勤務やリモート会議など多様な働き方の継続推進。

8, デジタル化、業務の効率化・事務改善

- (1) 休暇の電子申請を開始、文書電子決裁・電子保存システム導入、電子契約の試行開始、電子黒板用タブレットの導入。
- (2) DX研修会・AI研修会の初開催。

9, 執行体制の整備、職員のスキルアップ

- (1) (土地)27年ぶり、(道路)5年ぶりの正規職員採用。

(2) (道路)土木職と(住宅)建築職の相互併任。相互支援。

(3) 現地で学ぶ研修会(初・中級)の拡充。

10, 戦略的広報の展開

(1) センターHPの全面リニューアル。

(2) (道路)フェイスブックに加えX(旧ツイッター)開設。

十大ニュースは、皆さまの汗の結晶です。皆さまのご尽力に、心から感謝申し上げます。その流れは間違いなく良い方向に向かっておりますので、今年も力を合わせ、共に工夫して参りましょう。

経営の基本は次の三点で、いつも変わりません。国内外の政治・経済情勢は変転極まりがありませんし、にわかに予測はつきませんが、驚いてはいけません。変化するのが世の常です。

1, 「お客様とともに歩む」経営理念の堅持

2, 現場主義の徹底と健全経営の推進

3, センター・三公社の一体化促進

これらは三つとも深く関連しあっています。「現場に立って考え行動する」現場主義と、「現場で問題を解決する」現場力の発揮、ここに当センター

と三公社の強みがあります。昨年の業績表彰やひとりー挑戦表彰案件にはこの強みが遺憾なく発揮されました。お客様に喜んで頂くことによって、経営理念が絵空事ではなくなるのです。健全経営については数字も大事ですが、一番大切なのは信用です。信用を失ってはダメ、信用が健全経営の大元なのです。

センター・公社の一体化は、組織間の壁をなくし、相互に協力し、助け合い、組織の総合力を高め、県民へのサービスを充実し、県民に喜んで頂くことによって、組織全体としての信用を高めることが目的です。一体化計画は、センター・三公社の生き残り戦略と私は考えています。

他の公社が解散するのは何故でしょうか。一つは、健全経営を失ったからです。赤字続き、不良資産を抱える、信用が失墜する、これでは経営は成り立ちません。もう一つは、既存の公社が旧態依然で、互いの協力関係がないためではないでしょうか。仕事が減った所は、仕事のある所の手伝いをしたらいいのです。そして、互いに協力し、お客様に対するサービスを高めることです。自分さえよければ良いではダメ。そこが非常に大事な点で、特に幹部の皆さんには肝に銘じていただきたいと思います。

終わりにあたり、いつも同じで恐縮ですが、ご家族ともども心身の健康に留意して下さい。さあ、充実した一年と致しましょう。

“明るく、元気で、仲よく、厳しく！”

以上